

特定タンパク質阻害 心筋梗塞進行を抑制

岡山大グループ
ラットで確認

心臓の細胞膜にある 開いた際に活性酸素が 治療の課題となってい
特定のタンパク質の働 心筋細胞を傷つける。 る。

きを阻害すると、心筋 「虚血再かん流傷害」 高橋助教らは「TR
梗塞の進行が抑えられ ができることがあり、 P M 4」と呼ばれ、心

ることを、岡山大の研 究グループがラットを 使った実験で確認し

た。心筋梗塞のメカニ ズムの解明や新しい治 療法の開発につながる

成果といい、同大大学 院医歯薬学総合研究科 の高橋賢助教（循環器

生理学）が23日、発表 した。

心筋梗塞は、動脈が 狭まったり血栓が詰ま

ったりして心臓の血流 が低下する病気。投薬

やカテーテルを用いて 治療するが、血流を再

臓の細胞膜に多く存在 するタンパク質に着 目。ラットにTRPM 4の発現を抑制する化 合物（阻害薬）を投与 した後、虚血再かん流 傷害を起こさせて実験 したところ、心筋の細 胞死は、投与しなかつ た場合に比べて4分の 1程度に抑えられたと いう。

培養した心筋細胞に よる実験では、阻害薬

が活性酸素による細 胞死を防ぐことも裏付

けた。高橋助教は「心 筋細胞が死に至るメカ

ニズムの解明、阻害薬 の副作用の有無など

を調べる動物実験に取 り組みたい」としてい

る。

成果は2日付米オン

ライン科学誌プロスワ ンに掲載された。

（伊丹友香）

